

小池地区埋藏文化財調査報告書(4)

宮郷台遺跡 (860-4地点)

小池地蔵遺跡 (872地点)

宮郷台遺跡 (843-1地点)

2 0 2 2

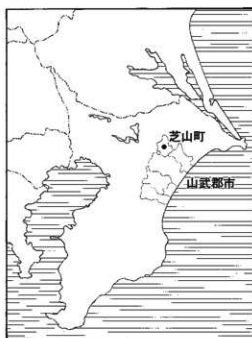
芝 山 町 教 育 委 員 会

小池地区埋蔵文化財調査報告書(4)

宮郷台遺跡 (860-4地点)

小池地蔵遺跡 (872地点)

宮郷台遺跡 (843-1地点)



2 0 2 2

芝 山 町 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は、航空機騒音移転に伴う個人住宅建設に先行して実施された「宮郷台遺跡（860-4地点）」と地域交流施設駐車場整備に先行して実施された「小池地藏遺跡（872地点）」及び個人住宅建設に先行して実施された「宮郷台遺跡（843-1地点）」の埋蔵文化財調査報告書である。

2. 本書に所収される内容は、

- ・千葉県山武郡芝山町小池字宮郷台860番地4に所在する、「宮郷台遺跡（860-4地点）」
 - ・千葉県山武郡芝山町小池字地藏872番地他に所在する、「小池地藏遺跡（872地点）」
 - ・千葉県山武郡芝山町小池字宮郷台843番地1に所在する、「宮郷台遺跡（843-1地点）」
- の発掘調査の成果である。

なお、本遺跡は、周辺を含めて数多くの発掘調査が実施されてきたので、字名及び地番を入れることによって、調査地点を明確にすると共に、小池地区埋蔵文化財調査報告書（4）として報告する。

3. 整理及び本報告書作成にあたって、組織は下記の通りである。

《芝山町教育委員会》（令和3年度）

教育長：内田 誠

教育課長：行川 永，社会教育・文化振興担当課長：奥住 淳，文化振興係長：山崎一矢。

芝山古墳・はにわ博物館副館長：小川欣也，学芸員：伝田郁夫，会計年度任用職員：渡辺修司

4. 各遺跡の発掘調査の調査機関等は、本文中に記載した。整理作業及び報告書刊行は、渡辺が担当し、令和3年度に実施した。

5. 出土遺物、図面等の記録類は、芝山町教育委員会が保管している。

6. 本書第1図に使用した地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図『多古』の一部に加筆したものをを使用した。

7. 本書図版1に使用したものは京葉測量株式会社による平成20年1月撮影のものである。

8. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関からご協力を賜った。ここに記して謝意を表します。

千葉県教育庁教育振興部文化財課，西山太郎，宮内勝巳（敬称略・順不同）

凡 例

1. 本書において遺構名をH＝堅穴住居跡，D＝土坑，M＝溝のように略記している。

2. 本書で用いた遺構配置図は、公共座標（日本測地系）を基準として作成し、方位は全て座標北を示す。

3. 遺構挿入図中の水系レベルの数値は、標高値を示す。

4. 計測値の（ ）内は、推定値及び現存する値を示す。

5. 土層及び土器の色調の表記については、小山正忠・竹原秀雄2006年版『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修による。

6. 遺構及び土器に使用したスクリーンは以下の通りである。



赤彩



黒色処理



磨り面



敲打痕

本文目次

例 言

第1章 遺跡の位置と環境	1
第2章 宮郷台遺跡（860-4地点）	4
1. 調査に至る経緯	4
2. 検出された遺構と遺物	5
a. 堅穴住居跡	5
b. 土坑	11
c. 溝	12
d. 遺構外及び表採遺物	13
第3章 小池地蔵遺跡（872地点）	20
1. 調査に至る経緯	20
2. 検出された遺構と遺物	20
第4章 宮郷台遺跡（843-1地点）	22
1. 調査に至る経緯	22
2. 検出された遺構と遺物	22

挿 図 目 次

第1図 宮郷台遺跡・小池地蔵遺跡と周辺の遺跡	1
第2図 調査区及び遺跡周辺の地形	2
第3図 小池地区遺跡周辺の調査例（1/2,000）	3
第4図 宮郷台遺跡（860-4地点）遺構配置図	4
第5図 H-001遺構及び遺物実測図	5
第6図 H-002遺構実測図	7
第7図 H-002遺物実測図	8
第8図 H-003遺構及び遺物実測図	10
第9図 D-001～D-006遺構実測図	12
第10図 M-001遺構実測図	12
第11図 遺構外遺物実測図（1）	13
第12図 遺構外遺物実測図（2）	14
第13図 遺構外遺物実測図（3）	15
第14図 遺構外遺物実測図（4）	16
第15図 遺構外遺物実測図（5）	17
第16図 表採遺物実測図	17
第17図 小池地蔵遺跡（872地点）遺構及び遺物実測図	21
第18図 宮郷台遺跡（843-1地点）トレンチ配置図及び遺物実測図	23

表 目 次

第1表	宮郷台遺跡・小池地藏遺跡周辺の遺跡一覧表	2
第2表	宮郷台遺跡(860-4地点) H-001出土遺物観察表	6
第3表	宮郷台遺跡(860-4地点) H-002出土遺物観察表	9
第4表	宮郷台遺跡(860-4地点) H-003出土遺物観察表	11
第5表	宮郷台遺跡(860-4地点) 遺構外出土遺物観察表(1)	17
第6表	宮郷台遺跡(860-4地点) 遺構外出土遺物観察表(2)	18
第7表	宮郷台遺跡(860-4地点) 遺構外出土遺物観察表(3)	19
第8表	宮郷台遺跡(860-4地点) 表採遺物観察表	19
第9表	小池地藏遺跡(872地点) 出土遺物観察表	21
第10表	宮郷台遺跡(843-1地点) 出土遺物観察表	23

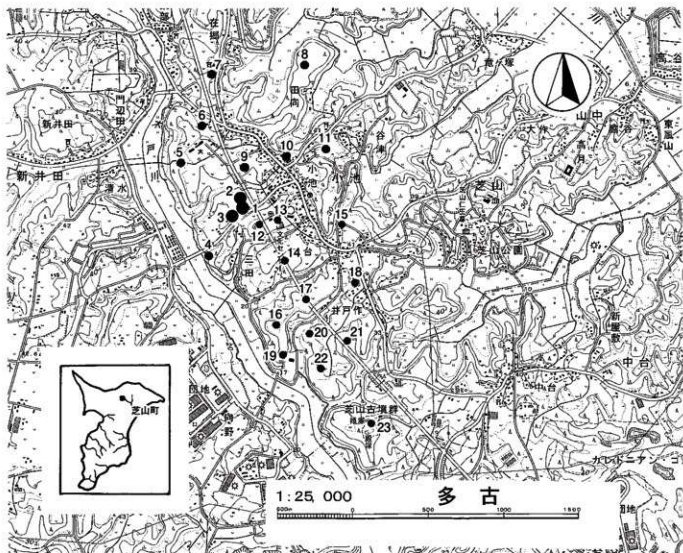
図 版 目 次

図版1	遺跡周辺航空写真(平成20年1月4日撮影)	図版6	宮郷台遺跡(860-4地点)
図版2	宮郷台遺跡(860-4地点)	1. 遺構外・表採遺物	
1. トレンチ全景		図版7	小池地藏遺跡(872地点)
2. H-001		1. 第2トレンチ(西より)	
3. 作業風景		2. 第11トレンチ(西より)	
図版3	宮郷台遺跡(860-4地点)	3. 第17トレンチ(南西より)	
1. H-002完掘(H-003)		4. 表採出土遺物	
2. H-003完掘		図版8	宮郷台遺跡(843-1地点)
3. H-003カマド		1. 第1トレンチ	
図版4	宮郷台遺跡(860-4地点)	2. 第2トレンチ	
1. H-001・H-002出土遺物		3. 第3トレンチ	
図版5	宮郷台遺跡(860-4地点)	4. 第4トレンチ	
1. H-003・遺構外出土遺物		5. 第1トレンチ・第4トレンチ・	
		第5トレンチ出土遺物	

第1章 遺跡の位置と環境

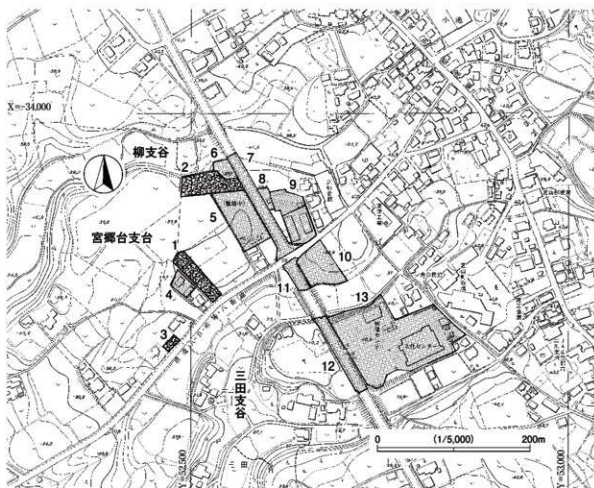
遺跡周辺一帯は地形的には、洪積層からなる下総台地の東部にあたり、東に太平洋に注ぐ栗山川の支流である高谷川、西に木戸川という二大水系に挟まれた松尾台に位置している。

東の高谷川水系では樹枝状の浸食地形が発達し、小支谷が幾筋か入り込み、舌状台地が多く見られる。西の木戸川水系では一般的に中流部では段丘状の地形が発達し、樹枝状の深い壁線や浸食地形は見られず、微高地が兩岸に展開していて、現水田面との比高差が5m未満である。宮郷台遺跡（小池地蔵遺跡）は、木戸川からの浸食地形で谷が入り込んでいる柳支谷と三田支谷に挟まれた宮郷台支台にあたり、標高40m前後を測る台地上に立地している。本遺跡が所在する芝山町小池付近は、過去に道路建設や住宅造成をはじめ大小の開発が行われた地域のひとつである。



第1図 宮郷台遺跡・小池地蔵遺跡と周辺の遺跡

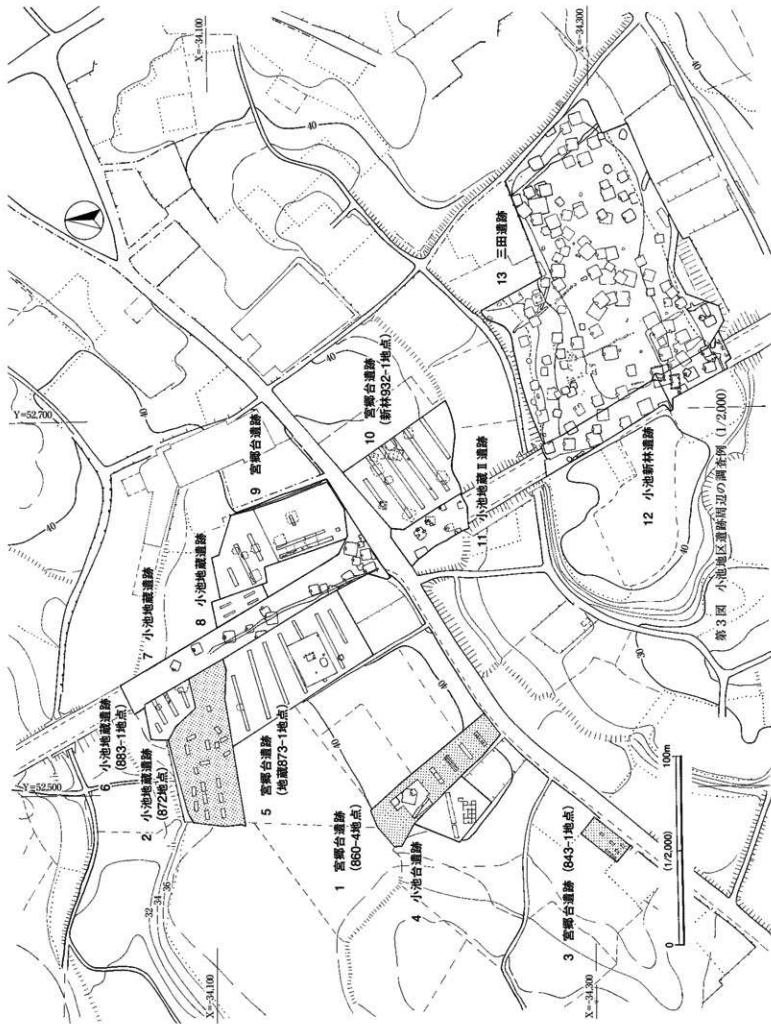
1. 宮郷台遺跡 (860-4地点) 2. 小池地蔵遺跡 (872地点) 3. 宮郷台遺跡 (843-1地点) 4. 下ノ内古墳群
5. 小池上入塚古墳群 6. 猪ノ堤遺跡 7. 宮門遺跡 8. 田向城跡 9. 小池麻生遺跡 10. 小池木戸脇遺跡 11. 丸辺遺跡
12. 小池新林遺跡 13. 三田遺跡 14. 御田台遺跡 15. 井戸作遺跡 16. 京寺遺跡 17. 小池元高田遺跡 18. 小池古墳群
19. 三田古墳群 20. 舟塚古墳群 (七林430-6地点) 21. 小池向台遺跡 22. 舟塚古墳群 23. 芝山 (中台) 古墳群



第2図 調査区及び遺跡周辺の地形

第1表 宮郷台遺跡・小池地蔵遺跡周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	参考文献	時代
1	宮郷台遺跡(860-4地点)	芝山町小池字宮郷台860-4	本書所収	
2	小池地蔵遺跡(872地点)	芝山町小池字地蔵872地	本書所収	
3	宮郷台遺跡(843-1地点)	芝山町小池字宮郷台843-1	本書所収	
4	小池台遺跡	芝山町小池847-1	樋口宏他 1970 「小池台遺跡」 『芝山町小池台遺跡-第一次調査-』 芝山町教育委員会	縄文 古墳 奈良・平安
5	宮郷台遺跡 (地蔵873-1地点)	芝山町小池字地蔵873-1他	山口直人他 1998 「宮郷台遺跡(地蔵873-1地点)」 『芝山町内遺跡発掘調査報告書-平成9年度-』 芝山町教育委員会・小池台遺跡発掘調査会 木川浩司 1999 「宮郷台遺跡(873-1地点)」 朝山武郡市文化財センター	縄文 古墳 奈良・平安
6	小池地蔵遺跡 (883-1地点)	芝山町小池字地蔵883-1	大谷弘幸 2008 「小池地蔵遺跡(883-1地点)」 『財団法人山武郡市文化財センター-年報No.24-平成19年度-』 朝山武郡市文化財センター	縄文 古墳 奈良・平安
7	小池地蔵遺跡	芝山町小池字地蔵876-1他	奥田正彦 1985 「小池地蔵遺跡」 『主要地方道成田松尾線Ⅱ』 朝千重県文化財センター	縄文 古墳 奈良・平安
8	小池地蔵遺跡	芝山町小池字地蔵881	海保孝則 1994 「小池地蔵遺跡」 『芝山町内遺跡発掘調査報告書-平成5年度-』 芝山町教育委員会	縄文
9	宮郷台遺跡	芝山町小池字地蔵878-1	1998 「宮郷台遺跡」 『財団法人千重県文化財センター-年報No.22-平成8年度-』 朝千重県文化財センター	古墳 奈良・平安
10	宮郷台遺跡 (新林932-1地点)	芝山町小池字新林932-1	山口直人 1999 「宮郷台遺跡(新林932-1地点)」 『芝山町内遺跡発掘調査報告書-平成10年度-』 芝山町教育委員会	古墳
11	小池地蔵Ⅱ遺跡	芝山町小池地蔵932-1	岡田光広 1991 「芝山町小池地蔵Ⅱ遺跡」 『主要地方道成田松尾線Ⅱ』 朝千重県文化財センター	古墳 奈良・平安
12	小池新林遺跡	芝山町小池字三田977-1他	奥田正彦他 1985 「小池新林遺跡」 『主要地方道成田松尾線Ⅱ』 朝千重県文化財センター 渡邊高広 1992 「小池新林遺跡」 『主要地方道成田松尾線Ⅱ』 朝千重県文化財センター	古墳 奈良・平安
13	三田遺跡	芝山町小池973	福岡元他 1989 「三田遺跡」 『三田遺跡発掘調査報告書』 芝山町教育委員会	古墳 奈良・平安



第3図 小池地区道跡周辺の調査例 (1/2,000)

第2章 宮郷台遺跡 (860-4地点)

1. 調査に至る経緯

今回の調査は、千葉県山武郡芝山町小池字麻生860番地4に、航空機騒音移転に伴う個人住宅建設を計画したところによる。平成5年11月16日に から芝山町教育委員会に住宅用地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」が提出された。

千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会では、当該地は『千葉県埋蔵文化財分布地図（2）』と照会し、現地踏査を行った結果、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「宮郷台遺跡」が存在することが確認され、遺跡有りの回答を平成5年12月6日付けで行った。

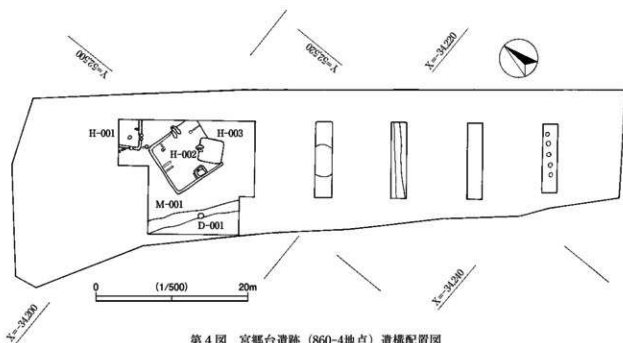
平成6年5月に遺跡の取り扱いについて、千葉県教育委員会・芝山町教育委員会・ との三者で協議を行われた結果、遺跡の性格及びその広がりを掌握する目的で確認調査を実施し、今後の検討資料とすることとした。

発掘調査は、千葉県教育委員会及び芝山町教育委員会の指導のもと、財団法人山武郡市文化財センターが受託事業として実施することになり、 と埋蔵文化財発掘調査に関する業務（確認調査）の委託契約を締結した。

確認調査は、調査課長田村隆、調査課長補佐小林清隆の指導のもと、調査研究員稲見英輔が実施した。面積は989㎡を対象として98㎡を平成6年8月4日から同年8月8日に行い、当該地区から竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、溝1条、遺物包含層1箇所が検出された。

この結果を受け、協議を重ねた結果、現状保存が困難な建物部分等の220㎡の調査対象地区について、本調査を実施することになり、再度、財団法人山武郡市文化財センターが と埋蔵文化財発掘調査に関する業務（本調査・整理）の委託契約を締結した。

調査担当は、調査研究員中野修秀が平成6年11月15日から平成6年11月30日まで実施し、竪穴住居跡3軒（古墳時代後期3）、土坑6基（縄文時代晩期2・古墳時代後期1・不明3）、溝1条が検出された。また、平成6年度中には、整理作業の一部（水洗・注記、記録整理、分類、接合・復元、実測の一部、トレースの一部）まで行った。



第4図 宮郷台遺跡 (860-4地点) 遺構配置図

2. 検出された遺構と遺物

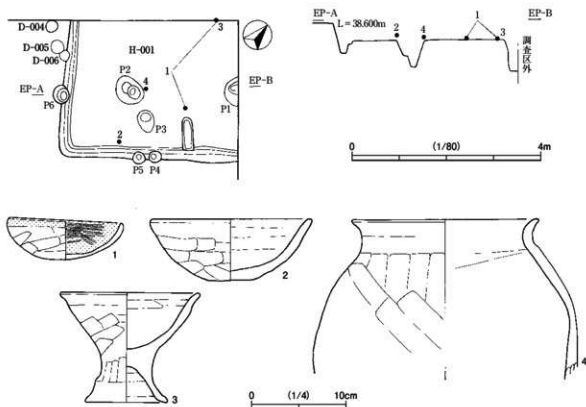
昭和44年12月に、隣接した南西部を「小池台遺跡」として調査が実施されている。今回調査された当遺跡から検出された遺構は、前述した通り989㎡の確認調査時は竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、溝1条等検出した。本調査は建物部分等の220㎡で竪穴住居跡3軒、土坑6基、溝1条を検出した。

a. 竪穴住居跡

今回調査した当遺跡からは、3軒検出されている。これらの竪穴住居跡は、重複しあっているものや区域外に伸びているものがある。遺存状態は比較的良好であった。

H-001 (第5図, 図版2)

主軸方向：N-21°-W。規模と平面形：(3.78)m×(3.00)m 正方形又は長方形と想定される。重複関係：単独。壁：壁高33～36cmを測り、やや緩やかに外傾して立ち上がる。周溝：北東部と北西部の一部が区域外の為検出されないが、周溝は壁下に全周していると推定され幅17～32cm、深さ4～8cm程で断面形はU字状を呈している。柱穴：6ヶ所(P1～P6)検出されている。P1径(30)×(63)cm、深さ69cm円形又は楕円形。P2径50×65cm、深さ62cm楕円形。P3径34×46cm、深さ30cm楕円形。P4径22×26cm、深さ7cm円形。P5径25×25cm、深さ15cm円形。P6径32×39cm、深さ28cm楕円形を呈している。床面：ほぼ平坦である。全面貼床の柱穴の間から中央にかけて硬化している。貯蔵穴：南壁より検出され、長軸71cm×短軸23cm、深さ23～26cmの楕円形を呈する。遺物：土師器坏1点、鉢1点、高坏1点、甕1点が出土した。所見：遺構の形態及び出土遺物より古墳時代後期の所産と考える。



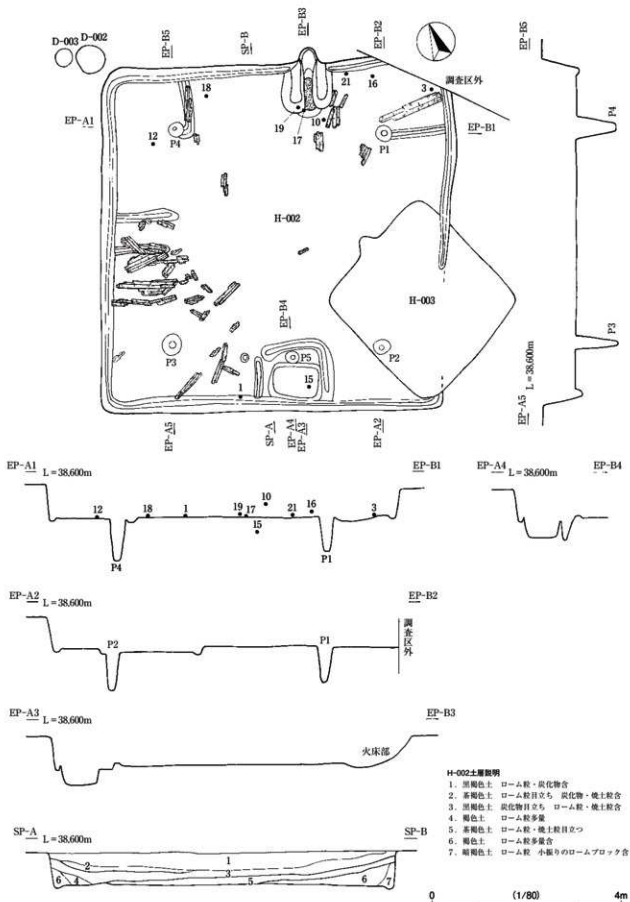
第5図 H-001遺構及び遺物実測図

第2表 宮郷台遺跡 (860-4地点) H-001出土遺物観察表

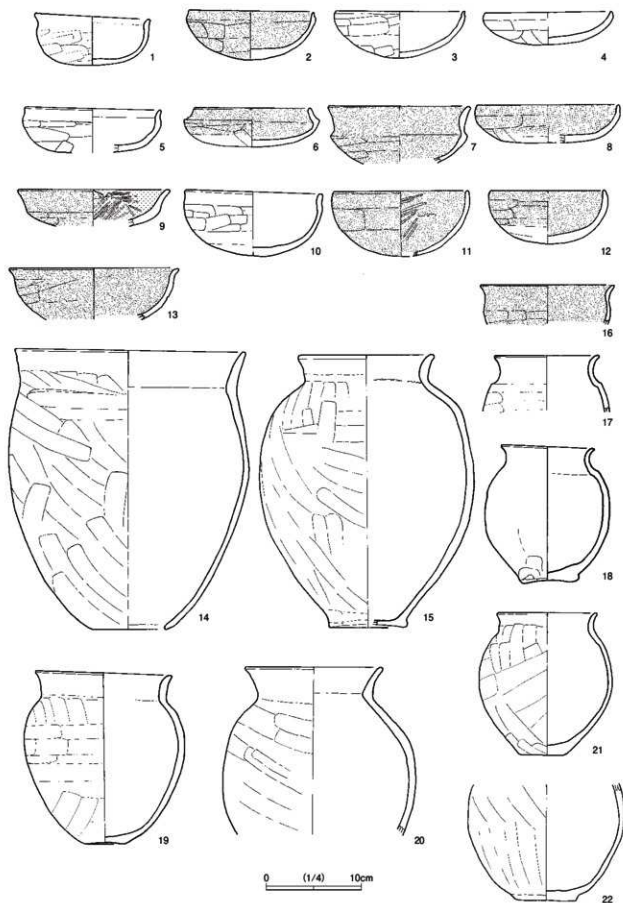
採国 番号	種類	器種	遺存度	計測値(cm)			胎土	調整		色調	
				口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面
5-1	土師器	坏	完形	122	42		スコリア 白色粒	ヘラ削り 口縁部黒色処理	ミガキ 黒色処理	暗褐色	暗褐色
5-2	土師器	鉢	3/4遺存	17.0	6.5	4.4	スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	明赤褐色	明赤褐色
5-3	土師器	高坏	口縁部一部欠損 ほぼ完存	14.6	11.6	8.8	スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	赤褐色	赤褐色
5-4	土師器	甕	口縁部～ 胴中央部遺存	19.8	(17.0)		白色粒 黒色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	赤褐色	赤褐色

H-002 (第6図、図版3)

主軸方向：N-26°-E。規模と平面形：7.44m×7.35m 正方形を呈する。重複関係：本跡は、南東部の一部をH-003に掘り込まれている。壁：壁高73～60cmを測り、やや緩やかに外傾して立ち上がる。周溝：南東一部分・北東一部分を除き壁下を全周していると考え。幅16～38cm、深さ3～7cm程で断面形はU字状を呈している。柱穴：5ヶ所（P1～P5）検出されている。P1径34×34cm、深さ75cm円形、P2径30×36cm、深さ79cm円形、P3径40×44cm、深さ82cm楕円形、P4径31×32cm、深さ89cm円形、P5径26×28cm、深さ40cm程の円形を呈し、出入口施設に伴うピットと考える。床面：ほぼ平坦である。貯蔵穴：南壁中央部に検出され長軸112cm×短軸82cm、深さ36～39cmの隅丸方形又は長方形と想定される。間仕切り：4ヶ所検出される。①長軸114cm×短軸18cm、深さ6～9cm、②長軸120cm×短軸20cm、深さ6～12cm、③長軸132cm×短軸20cm、深さ4～10cm、④長軸116cm×短軸14cm、深さ7cm。周堤：長径34cm×短径15cm、深さ1～6cm。カマド：北壁中央部の壁を30cm外へ掘り込まれている。規模は長さ148cm、幅108cmを測る。火床部は長径68cm×短径(18cm)が検出された。遺物：土師器坏9点、埴5点、甕7点、瓶1点が出土した。所見：本跡は、重複関係によりH-003より古い時期に構築。遺構の形態及び出土遺物より古墳時代後期の所産と考える。



第6図 H-002遺構実測図



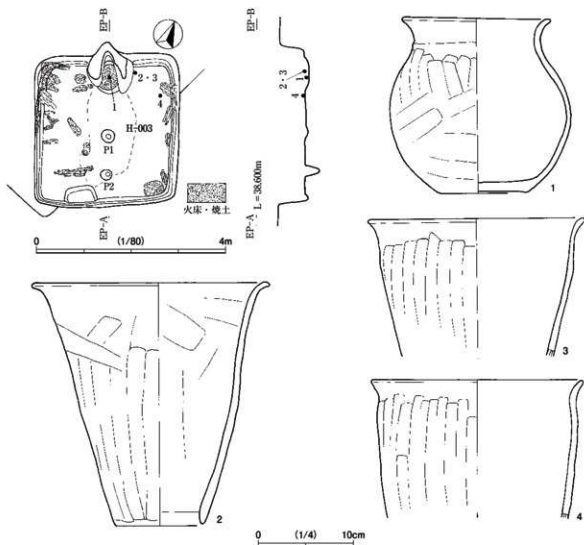
第7図 H-002遺物実測図

第3表 宮郷台遺跡 (860-4地点) H-002出土遺物観察表

検出 番号	種類	器種	遺存度	計測値(cm)			胎土	調整		色調	
				口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面
7-1	土師器	坏	完形	122	52		白色粒 黒色粒	ヘラ削り 赤彩 (一部)	ナデ 赤彩 (一部)	赤褐色	赤褐色
7-2	土師器	坏	口縁部～底辺部 一部欠損ほぼ完存	132	51		白色粒 石英	ヘラ削り 赤彩	ナデ 赤彩	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色
7-3	土師器	坏	口縁部～底辺部 1/4遺存	136	49		白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	黒褐色	黒褐色
7-4	土師器	坏	口縁部～底辺部 1/4遺存	134	39		白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	暗赤褐色	にぶい 赤褐色
7-5	土師器	坏	口縁部～体部3/4 底辺一部遺存	142	(48)		白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色
7-6	土師器	坏	1/2遺存	122	41		白色粒 石英	ヘラ削り 口縁部 ～体中央部赤彩	ナデ 赤彩	暗赤褐色	暗赤褐色
7-7	土師器	坏	1/2遺存	150	(61)		白色粒 石英	ヘラ削り 赤彩	ナデ 赤彩	にぶい 褐色	にぶい 褐色
7-8	土師器	坏	1/4弱遺存	150	(40)		白色粒 石英	ヘラ削り 口縁部 ～体中央部赤彩	ナデ 赤彩	褐色	褐色
7-9	土師器	坏	口縁部1/3 体部1/2遺存	160	(39)		白色粒 黒色粒 石英	ヘラ削り 赤彩	ナデ 黒色処理	褐色	褐色
7-10	土師器	埴	完形	146	78		スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	赤褐色	赤褐色
7-11	土師器	埴	口縁部～底辺部 1/4遺存	142	69		白色粒 黒色粒 石英	ヘラ削り 赤彩	ミガキ 赤彩	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色
7-12	土師器	埴	ほぼ完形	122	56		スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り 口縁部 ～体中央部赤彩	ナデ 赤彩	褐色	褐色
7-13	土師器	埴	口縁部～体部 1/4遺存	180	(55)		白色粒 石英	ヘラ削り 赤彩	ナデ 赤彩	暗褐色	暗褐色
7-14	土師器	甗	口縁部～底辺部3/4 胴部遺存	242	294	76	スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	暗赤褐色	褐色
7-15	土師器	甗	口縁部～底辺部3/4 胴部3/4遺存	144	289	82	スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	赤褐色	極暗 赤褐色
7-16	土師器	埴	口縁部～体部 1/2弱遺存	142	(40)		白色粒 石英	ヘラ削り 赤彩	ナデ 赤彩	暗赤褐色	黒褐色
7-17	土師器	甗	口縁部～胴上部 1/3遺存	(110)	(58)		スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	黒褐色	黒色
7-18	土師器	甗	口縁部一部欠損 ほぼ完形	98	141	56	スコリア 白色粒 黒色粒 石英	無調整	ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色
7-19	土師器	甗	完形	124	179	44	白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	暗赤褐色	極暗 赤褐色
7-20	土師器	甗	口縁部～胴中央部 3/4遺存	146	(177)		スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色
7-21	土師器	甗	口縁部～底辺部 1/2遺存	105	150	48	白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	明赤褐色	黒褐色
7-22	土師器	甗	胴中央部～底辺部 1/2遺存		(122)	62	スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	赤褐色	赤褐色

H-003 (第8図, 図版3)

主軸方向: N-19°-W。規模と平面形: 3.24m×3.06m 正方形を呈する。重複関係: 本跡は、H-002の南東部を掘り込んでいる。壁: 壁高50~59cmを測り、やや緩やかに外傾して立ち上がる。周溝: 壁下を全周していると考える。幅11~29cm、深さ4~8cm程で断面形はU字状を呈している。柱穴: 2ヶ所 (P1・P2) 検出されている。P1径25×27cm、深さ3cm円形、P2径22×23cm、深さ30cm円形を呈している。床面: はほぼ平坦である。コーナーを除いて直床。中央部一帯が硬化。焼却時の火力により赤化部分あり。貯蔵穴: 南壁西部よりに検出され、長軸65cm×短軸(38)cm、深さ5cmの隅丸方形又は長方形と想定される。カマド: 北壁中央部の壁を25cm外へ掘り込まれている。規模は長さ108cm、幅97cmを測る。火床部の長径24cm×短径21cmが検出された。北壁中央の砂粘土、再生構築土により造られる。2回程造り替えがある。火床部は10cm程の灰の堆積あり。遺物: 土師器甕1点、瓶3点が出土した。所見: 本跡は、重複関係によりH-002より新しい時期に構築。遺構の形態及び出土遺物より古墳時代後期の所産と考える。



第8図 H-003遺構及び遺物実測図

第4表 宮郷台遺跡 (860-4地点) H-003出土遺物観察表

検出 番号	種類	器種	遺存度	計測値(cm)			胎土	調整		色調	
				口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面
8-1	土師器	甕	完形	15.6	18.4	9.2	白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	赤色	赤色
8-2	土師器	甕	口縁部1/4 胴部～底部遺存	25.0	25.5	9.2	スコリア 白色粒 石英	ヘラ削り	ヘラナデ	赤褐色	赤褐色
8-3	土師器	甕	口縁部～胴中央部 1/4部遺存	22.8	(14.5)		白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	明褐色	明褐色
8-4	土師器	甕	口縁部～胴中央部 1/4部遺存	22.4	(14.5)		白色粒 石英	ヘラ削り	ナデ	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色

b. 土坑

調査区から土坑6基(縄文時代晩期2, 古墳時代後期1, 不明3)が検出された。掲載可能な遺物は出土しなかった。

D-001 (第9図)

重複関係: M-001の南部を掘り込んでいる。長軸方向: N-12.5°-E又はN-77.5°-W。規模と平面形: 長径0.91m×短径0.80mの円形を呈し、深さ28～45cmを測る。壁: 緩やかに外傾して立ち上がる。底面: 楕円形を呈し、ほぼ平坦である。遺物: 実測不能な土師器2点出土した。

D-002 (第9図)

重複関係: 単独。長軸方向: N-19°-W又はN-71°-E。規模と平面形: 径0.58mの円形を呈し、深さ40～58cmを測る。壁: 緩やかに外傾して立ち上がる。底面: 楕円形を呈し、ほぼ平坦である。遺物: 実測不能な縄文土器(晩期)2点出土した。

D-003 (第9図)

重複関係: 単独。長軸方向: N-18°-W又はN-72°-E。規模と平面形: 長径0.38m×短径0.36mの円形を呈し、深さ46～50cmを測る。壁: 緩やかに外傾して立ち上がる。底面: 円形を呈し、ほぼ平坦である。遺物: 実測不能な縄文土器(晩期)と思われる土器2点を出土した。

D-004 (第9図)

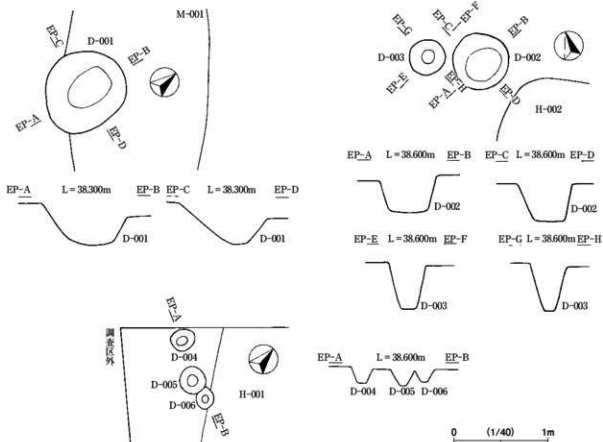
重複関係: 単独。長軸方向: N-32.5°-E又はN-57.5°-W。規模と平面形: 長径0.27m×短径0.24mの円形を呈し、深さ34～37cmを測る。壁: 緩やかに外傾して立ち上がる。底面: 円形を呈し、ほぼ平坦である。

D-005 (第9図)

重複関係: 単独。長軸方向: N-56°-W又はN-34°-E。規模と平面形: 長径0.28m×短径0.27mの円形を呈し、深さ39～40cmを測る。壁: 緩やかに外傾して立ち上がる。底面: 円形を呈し、ほぼ平坦である。

D-006 (第9図)

重複関係: H-001の北西部を掘り込んでいる。長軸方向: N-49°-W又はN-41°-E。規模と平面形: 径0.22mの円形を呈し、深さ34cm前後を測る。壁: 緩やかに外傾して立ち上がる。底面: 円形を呈し、ほぼ平坦である。



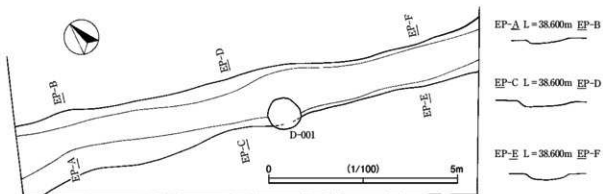
第9図 D-001～D-006遺構実測図

c. 溝

調査区から溝1条が検出された。出土遺物もなく時期決定に欠けるが、中世以降の所産と考える。

M-001 (第10図)

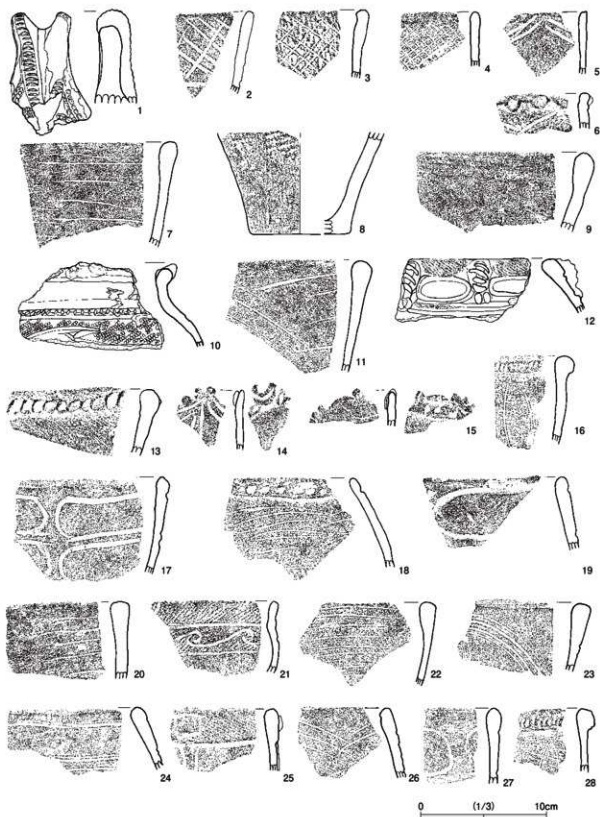
重複関係: 南部をD-001の上位に構築されている。規模と形状: 全長は約(12.4)mで本跡の東部側と西部側は調査区域外に伸びているため全容は把握できないが、上幅1.0～1.5m、下幅0.7～1.2m、深さ12～18cmを測る。床面は平坦である。壁: 緩やかに外傾しながら立ち上がる。



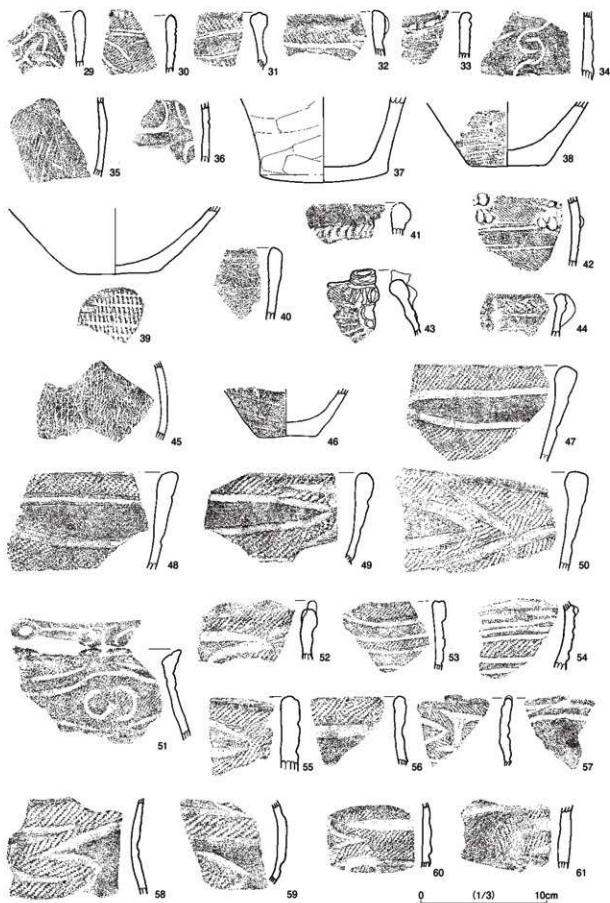
第10図 M-001遺構実測図

d. 遺構外及び表採遺物

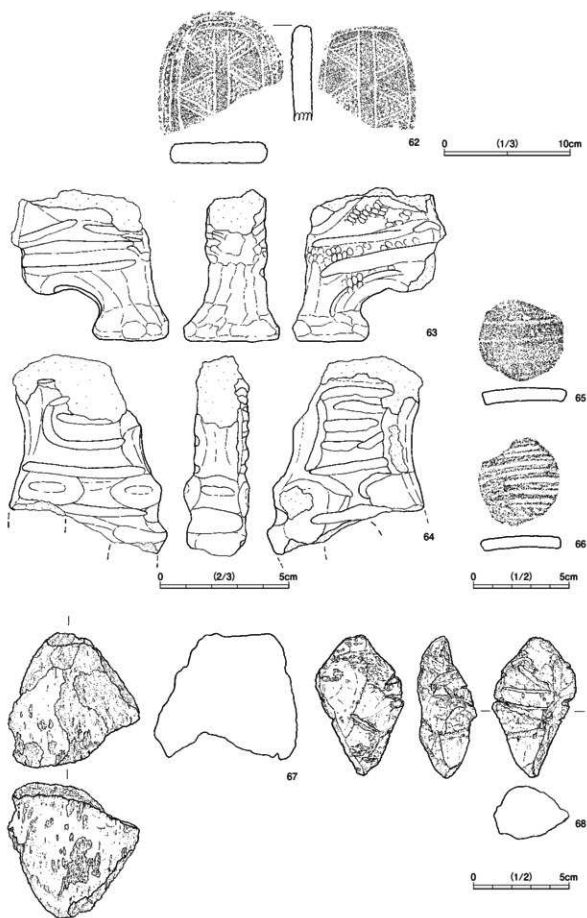
調査区内より出土した遺構外及び表採遺物を掲載する。



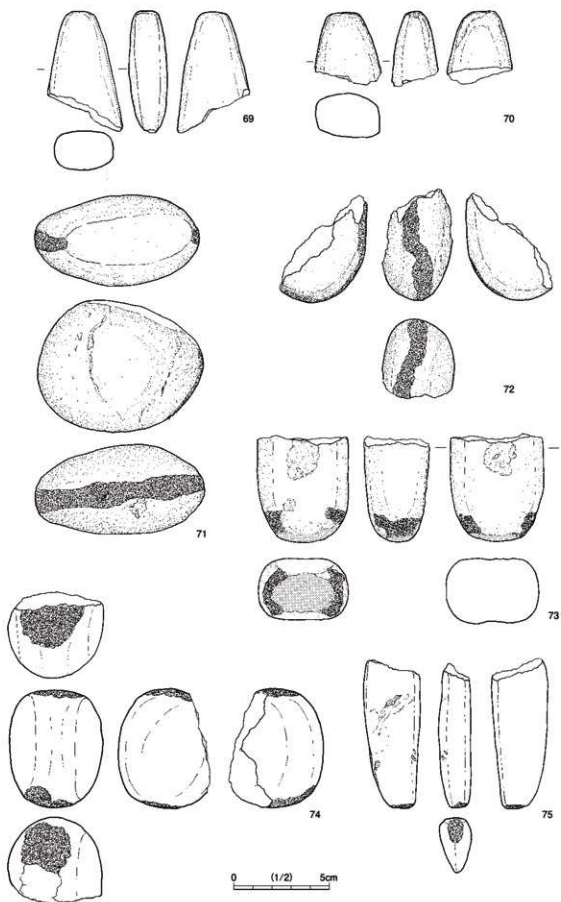
第11図 遺構外遺物実測図(1)



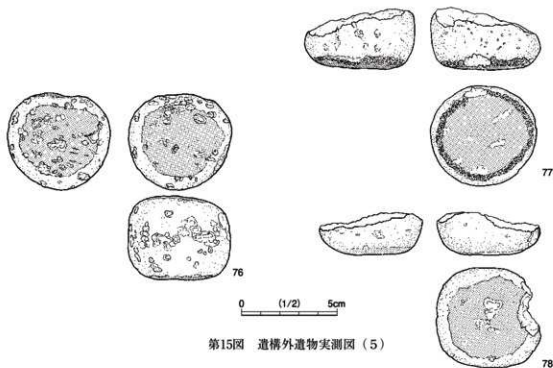
第12図 遺構外遺物実測図 (2)



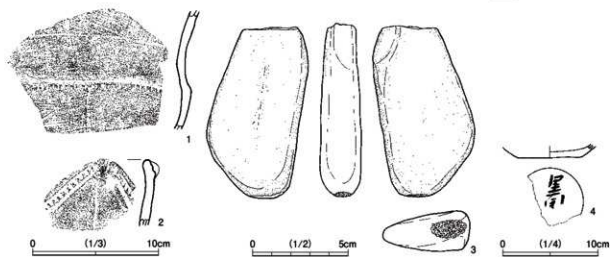
第13図 遺構外遺物実測図 (3)



第14図 遺構外遺物実測図 (4)



第15図 遺構外遺物実測図 (5)



第16図 表採遺物実測図

第5表 宮郷台遺跡 (860-4地点) 遺構外出土遺物観察表 (1)

採掘 番号	種類	器種	遺存度	胎土	計測値			色調		型式名	出土 地点
					深鉢	器高	底径	外面	内面		
11-1	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒 雲母				明赤褐色	明赤褐色	阿玉台式	H-002
11-2	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	加曾利B式	H-001
11-3	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				淡橙褐色	淡橙褐色	加曾利B式	H-001
11-4	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	加曾利B式	
11-5	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				赤褐色	赤褐色	加曾利B式	
11-6	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒 石英				橙褐色	橙褐色	加曾利B式	
11-7	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒				灰褐色	橙褐色	安行式	H-002

第6表 宮郷台遺跡 (860-4地点) 遺構外出土遺物観察表 (2)

押回 番号	種類	器種	遺存度	胎土	計測値			色調		型式名	出土 地点
					深鉢	器高	底径	外面	内面		
11-8	縄文土器	深鉢	胴下部～底部 1/3遺存	白色粒		(8.0)	(8.0)	橙褐色	暗褐色	安行式	H-001
11-9	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				橙褐色	にぶい褐色	安行式	H-002
11-10	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				にぶい赤褐色	赤褐色	安行式	H-002
11-11	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				暗褐色	赤褐色	安行式	H-002
11-12	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	安行式	H-002
11-13	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				明褐色	明褐色	安行式	H-002
11-14	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				明赤褐色	明赤褐色	安行式	H-002
11-15	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	安行式	H-002
11-16	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				淡橙褐色	淡橙褐色	安行式	M-001
11-17	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				黄褐色	黄褐色	安行式	
11-18	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 石英				黒褐色	黒褐色	安行式	
11-19	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				赤褐色	赤褐色	安行式	
11-20	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				明黄褐色	明黄褐色	安行式	
11-21	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				橙褐色	橙褐色	安行式	M-001
11-22	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				褐色	褐色	安行式	
11-23	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	安行式	
11-24	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				オリブ褐色	にぶい黄褐色	安行式	
11-25	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				黒褐色	黒褐色	安行式	
11-26	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				明褐色	橙褐色	安行式	
11-27	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	安行式	
11-28	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				橙褐色	橙褐色	安行式	
12-29	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				褐色	褐色	安行式	
12-30	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	安行式	
12-31	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	安行式	
12-32	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				暗褐色	暗褐色	安行式	
12-33	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	安行式	
12-34	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒 石英				橙褐色	明赤褐色	安行式	
12-35	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒				暗褐色	暗褐色	安行式	
12-36	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒				明褐色	にぶい黄褐色	安行式	
12-37	縄文土器	深鉢	底辺部～ 底部遺存	スコリア 白色粒 黒色粒	(6.6)	99		橙褐色	橙褐色	安行式	
12-38	縄文土器	深鉢	底辺部1/2 底部遺存	白色粒 黒色粒	(5.0)	6.0×5.0		浅黄褐色	明黄褐色	安行式	
12-39	縄文土器	深鉢	底辺部～底部 1/3遺存	白色粒 黒色粒	(5.2)	(6.2)		淡橙褐色	淡橙褐色	安行式	H-002
12-40	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				明褐色	明褐色	安行式	
12-41	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				褐色	褐色	安行式	
12-42	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒 石英				褐色	褐色	安行式	
12-43	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒				にぶい褐色	にぶい褐色	安行式	
12-44	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				橙褐色	褐色	安行式	
12-45	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 石英				黒褐色	黒褐色	安行3b (晩期)式	H-001
12-46	縄文土器	深鉢	底辺部～ 底部遺存	スコリア 白色粒 石英	(3.6)	4.4		明褐色	明褐色	安行3b (晩期)式	H-001

第7表 宮郷台遺跡 (860-4地点) 遺構外出土遺物観察表 (3)

採回 番号	種類	器種	遺存度	胎土	計測値			色調		型式名	出土 地点
					深鉢	器高	底径	外面	内面		
12-47	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				淡橙褐色	淡橙褐色	前溝式	H-002
12-48	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒				にぶい橙褐色	橙褐色	前溝式	H-002
12-49	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒 石英				明赤褐色	明赤褐色	前溝式	H-002
12-50	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒				褐色	にぶい褐色	前溝式	
12-51	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				褐色	にぶい黄褐色	前溝式	
12-52	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	前溝式	
12-53	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒				暗赤褐色	暗赤褐色	前溝式	
12-54	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒				にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	前溝式	
12-55	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				淡褐色	淡褐色	前溝式	
12-56	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒				褐色	褐色	前溝式	
12-57	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒				橙褐色	橙褐色	前溝式	
12-58	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒				橙褐色	赤褐色	前溝式	
12-59	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒				褐色	褐色	前溝式	
12-60	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒				黒褐色	黒褐色	前溝式	
12-61	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒				灰黄褐色	灰黄褐色	前溝式	

採回 番号	種類	器種	遺存度	胎土	色調		出土地点
					外面	内面	
13-62	縄文土器	土板		白色粒 黒色粒 石英	黒褐色	明黄褐色	H-002
13-63	縄文土器	土板		白色粒	橙褐色	橙褐色	H-003
13-64	縄文土器	土板		白色粒 黒色粒	橙褐色	橙褐色	

採回 番号	種類	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	出土地点
			最大長	最大幅	最大厚			
13-65	土製品	土製円盤	4.3	4.5	0.7	17.3	100	H-001
13-66	土製品	土製円盤	4.6	4.2	0.6	16.8	90	H-002
13-67	石製品	軽石	7.0	7.5	6.6	92.9	?	
13-68	石製品	軽石	7.4	4.7	2.8	21.6	?	
14-69	石製品	石斧	6.4	4.0	6.4	73.0	50	H-001
14-70	石製品	石斧	3.8	3.8	2.3	42.6	30	H-001
14-71	石製品	軽石	7.0	8.8	4.7	408.1	100	H-002
14-72	石製品	軽石	5.6	4.6	3.8	98.1	30	H-002
14-73	石製品	軽石	5.6	4.8	3.2	174.8	50	H-002
14-74	石製品	軽石	5.0	5.0	6.3	207.7	50	
14-75	石製品	軽石	7.9	2.9	1.8	54.3	70	
15-76	石製品	播り石	5.1	4.9	4.5	194.1	100	
15-77	石製品	播り石	5.3	5.6	3.2	121.3	50	
15-78	石製品	播り石	5.3	5.5	2.2	88.6	30	

第8表 宮郷台遺跡 (860-4地点) 表採遺物観察表

採回 番号	種類	器種	遺存度	胎土	計測値			色調		型式名	出土 地点
					深鉢	器高	底径	外面	内面		
16-1	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 黒色粒 石英				褐色	暗褐色	安行式	
16-2	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英				黒褐色	黒褐色	安行式	

採回 番号	種類	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	出土地点
			最大長	最大幅	最大厚			
16-3	石製品	軽石	9.0	5.3	2.1	132.4	90	

採回 番号	種類	器種	遺存度	計測値 (cm)			胎土	調整		色調	
				口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面
16-4	土器	環	底部遺存		(12)	(68)	スコリア 白色粒 黒色粒 石英	ヘラ削り 底部彫削	ナデ	にぶい赤褐色	黒褐色

第3章 小池地蔵遺跡（872地点）

1. 調査に至る経緯

今回の調査は、千葉県山武郡芝山町小池字地蔵872番地他において、芝山町が地域交流施設駐車場の造成を計画したことによる。当該地は『千葉県埋蔵文化財分布地図（2）』と照会し、現地踏査を行った結果、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、隣接地を県道成田松尾線（奥田1985）、商業施設建設（山口1998）（木川1999）、駐車場整備（大谷2008）などの報告があり、遺跡有りの回答を行った。

工事に先立ち芝山町より平成22年2月15日付けで、文化財保護法第94条に基づく発掘届（土木工事の届出）の提出を受け、千葉県教育委員会へ進達した。その結果、平成22年2月18日付けの通知により工事着手前に発掘調査を実施するように指示された。これにより、遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、当該地域に対して遺跡の内容と性格を把握するための確認調査を実施することになった。

調査組織は以下の通りである。

《芝山町教育委員会》（平成21年度）

五木田正照（芝山町教育委員会教育長）

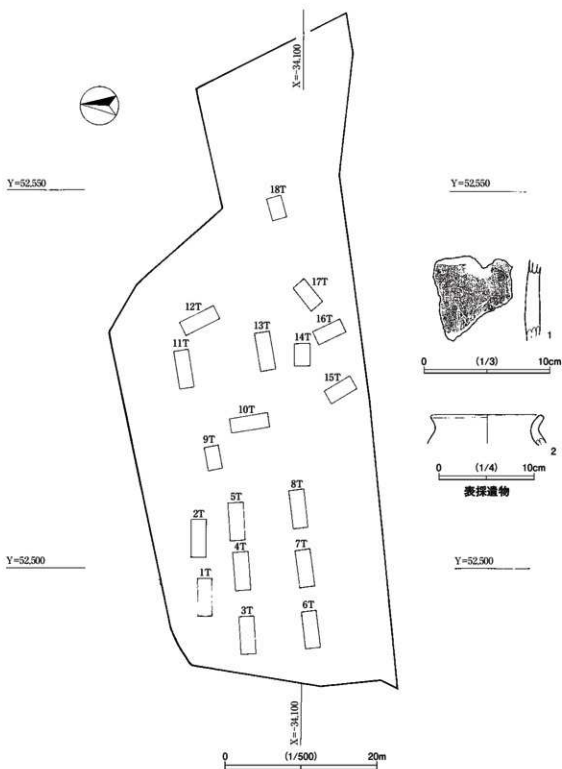
宇井 重敏（社会教育課長）

奥住 淳（社会教育課学芸員）

渡辺 修司（調査担当）

2. 検出された遺構と遺物

本遺跡は、調査対象面積1,945㎡で、そのうち約152㎡の確認調査を平成22年3月11日に実施した。重機による表土除去を行い遺構の検出を行ったところ、ほとんどのトレンチはかなりの深さまで人の手が加わっており、遺構は検出されなかった。遺物については、表採で実測可能な遺物を2点掲載した。



第17図 小池地藏遺跡 (872地点) 遺構及び遺物実測図

第9表 小池地藏遺跡 (872地点) 出土遺物観察表

遺構 番号	探掘 番号	種類	器種	遺存度	計測値(cm)			胎土	調整		色調		型式
					口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面	
表探	17-1	縄文土器	深鉢	口縁片				スコリア 白色粒			赤褐色	黒褐色	不明
表探	17-2	土師器	甕	口縁部1/20遺存	(11.9)	(3.2)		白色粒	ヨコナデ	ヨコナデ	明褐色	明褐色	

第4章 宮郷台遺跡（843-1地点）

1. 調査に至る経緯

宮郷台遺跡（843-1地点）の所在する千葉県山武郡芝山町小池字宮郷台843番地1に、⁹が個人住宅建設を計画したところによる。当該地は、『千葉県埋蔵文化財分布地図（2）』と照会し、現地踏査を行った結果、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「宮郷台遺跡」が所在し、遺跡有りの回答を行った。工事に先立ち令和2年12月1日付けで、文化財保護法93条に基づく発掘届（土木工事の届出）の提出をより受け、千葉県教育委員会へ進達した。その結果、令和2年12月16日付けの通知により工事着手前に発掘調査を実施するように指示された。

これにより遺跡の取り扱いについて、及び施工業者と協議を行い、遺跡の性格を把握する目的で芝山町教育委員会が、直営事業として確認調査を実施することになった。

調査組織は以下の通りである。

《芝山町教育委員会》（令和2年度）

内田 誠（芝山町教育委員会教育長）

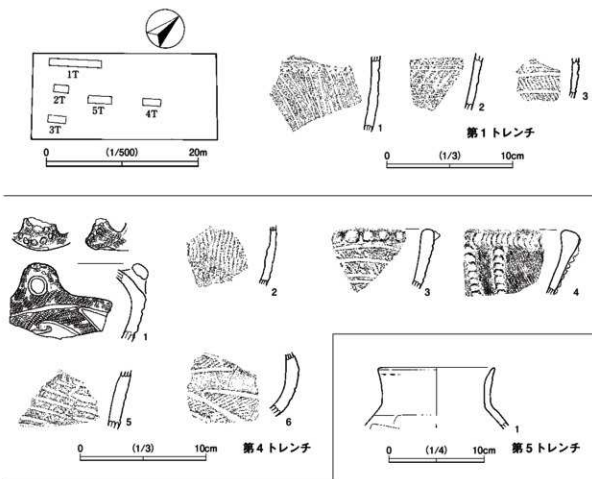
小川 正明（教育課長）

奥住 淳（副主幹）

渡辺 修司（調査担当）

2. 検出された遺構と遺物

今回調査された当遺跡からは、遺構は検出されなかった。遺物は、各トレンチから少量出土しており、掲載可能な遺物として、縄文土器9点及び土師器1点を掲載した。今回の調査区は、宮郷台遺跡の範疇であるが、遺構の空白区であることが伺われる。



第18図 宮郷台遺跡 (843-1地点) トレンチ配置図及び遺物実測図

第10表 宮郷台遺跡 (843-1地点) 出土遺物観察表

遺構番号	挿図番号	種類	器種	遺存度	胎土	色調		型式名
						外面	内面	
第1トレンチ	18-1	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 石英	暗褐色	暗褐色	安行式
第1トレンチ	18-2	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 石英	褐色	黒褐色	安行式
第1トレンチ	18-3	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 石英	褐色	褐色	安行式
第4トレンチ	18-1	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英	橙褐色	黒褐色	加曾利E式
第4トレンチ	18-2	縄文土器	深鉢	胴部片	スコリア 白色粒 石英	赤褐色	褐色	加曾利E式
第4トレンチ	18-3	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	安行式
第4トレンチ	18-4	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア 白色粒 黒色粒 石英	赤褐色	赤褐色	安行式
第4トレンチ	18-5	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 石英	褐色	褐色	安行式
第4トレンチ	18-6	縄文土器	深鉢	胴部片	白色粒 石英	黒褐色	黒褐色	安行式

遺構番号	挿図番号	種類	器種	遺存度	計測値(cm)			調整		胎土	色調	
					口径	器高	底径	外面	内面		外面	内面
第5トレンチ	18-1	土師器	甕	口縁部～胴上部 1/5遺存	(122)	(60)		ヘタ削リ	ナデ	スコリア 白色粒 石英	暗褐色	暗褐色

報告書抄録

ふりがな	しばやままちこいけちくまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ (4)
書名	芝山町小池地区埋蔵文化財調査報告書 (4)
副書名	宮郷台遺跡 (860-4地点) 小池地蔵遺跡 (872地点) 宮郷台遺跡 (843-1地点)
シリーズ名	芝山町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第12集
編集者	渡辺修司
編集機関	芝山町教育委員会
所在地	〒289-1624 千葉県山武郡芝山町小池973 1m0479-77-1861
発行機関	芝山町教育委員会
所在地	〒289-1624 千葉県山武郡芝山町小池973 1m0479-77-1861
発行年月日	西暦2022年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号				
みやこうだいせき 宮郷台遺跡 (860-4地点)	ちばけんさんぶぐんしばやままちこいけちくまい 千葉県山武郡芝山町小池字 宮郷台860-4他	12409	山文セ -72	35° 41' 24"	140° 24' 48"	確認調査 98/989 本調査 上層1,220	航空機騒音移転 に伴う個人住宅 建設
こいけちくまいぞう 小池地蔵遺跡 (872地点)	ちばけんさんぶぐんしばやままちこいけちくまい 千葉県山武郡芝山町小池字 地蔵872他	12409	芝-006	35° 41' 28"	140° 24' 49"	確認調査 152/1945	地域交流施設駐 車場造成
みやこうだいせき 宮郷台遺跡 (843-1地点)	ちばけんさんぶぐんしばやままちこいけちくまい 千葉県山武郡芝山町小池字 宮郷台843-1	12409	芝-044	35° 41' 21"	140° 24' 47"	確認調査 14/347	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
みやこうだいせき 宮郷台遺跡 (860-4地点)	集落跡	縄文時代	土坑1基	縄文土器	古墳時代後期の集落跡が展開されている。又、縄文時代晩期前浦式期の遺物が土偶を含めて比較的多く出土した。
		古墳時代	堅穴住居跡3軒 土坑1基	土師器（坏・埴・高坏・鉢・甕・甔）	
		不明	土坑4基 溝1条		
要約	航空機騒音移転に伴う個人住宅建設に先行して町山武郡市文化財センターが、平成6年度に確認・本調査を実施した宮郷台遺跡（860-4地点）の発掘調査報告書である。西側隣接地を「芝山町小池台遺跡調査-第一次概報」として小池台遺跡発掘調査会が、昭和44年度に調査を実施し報告されている。今回検出した遺構は、堅穴住居跡3軒（古墳時代後期）、土坑6基（縄文時代晩期1基・古墳時代後期1基・不明4基）、溝状遺構1条（不明）である。				
こいけちくまいぞう 小池地蔵遺跡 (872地点)	包蔵地	縄文時代		縄文土器（不明）	本遺跡は、一部の手が加わっているが遺構は検出されず遺物は数点出土した。
		古墳時代		土師器（甕）	
要約	地域交流施設駐車場造成に先行して芝山町教育委員会が平成22年度に確認調査を実施した小池地蔵遺跡（872地点）の発掘調査報告書である。北側隣接地を平成19年度に「小池地蔵遺跡（883-1地点）」として町山武郡市文化財センターが発掘調査を実施し、平成20年度に報告されている。又、南側隣接地を平成9年度に「宮郷台遺跡（地蔵873-1地点）」として確認調査を、平成10年度に「宮郷台遺跡（873-1地点）」として本調査をそれぞれ実施している。今回の当地点では、一部の手が加わっていることが報告されている。今回の調査では、縄文土器及び土師器の2点を報告する。				
みやこうだいせき 宮郷台遺跡 (843-1地点)	包蔵地	縄文時代		縄文土器	縄文時代（加曾利E・安行）を中心とした遺物が出土した。
		古墳時代		土師器（甕）	
要約	個人住宅建設に先行して芝山町教育委員会が令和2年度に確認調査を実施した宮郷台遺跡（843-1地点）の発掘調査報告書である。近接地は前述したが、小池台遺跡調査会が実施した「小池台遺跡」が報告されている。今回の調査では遺構は検出されず、加曾利E及び安行の縄文土器と土師器1点を報告する。				

写 真 图 版



- 1. 宮郷台遺跡 (860-4 地点)
- 2. 小池地蔵遺跡 (872 地点)
- 3. 宮郷台遺跡 (843-1 地点)



1. トレンチ全景



2. H-001



3. 作業風景

1. H-002
完掘 (H-003)



2. H-003
完掘



3. H-003
カマド





1



2



3



4

H-001



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20

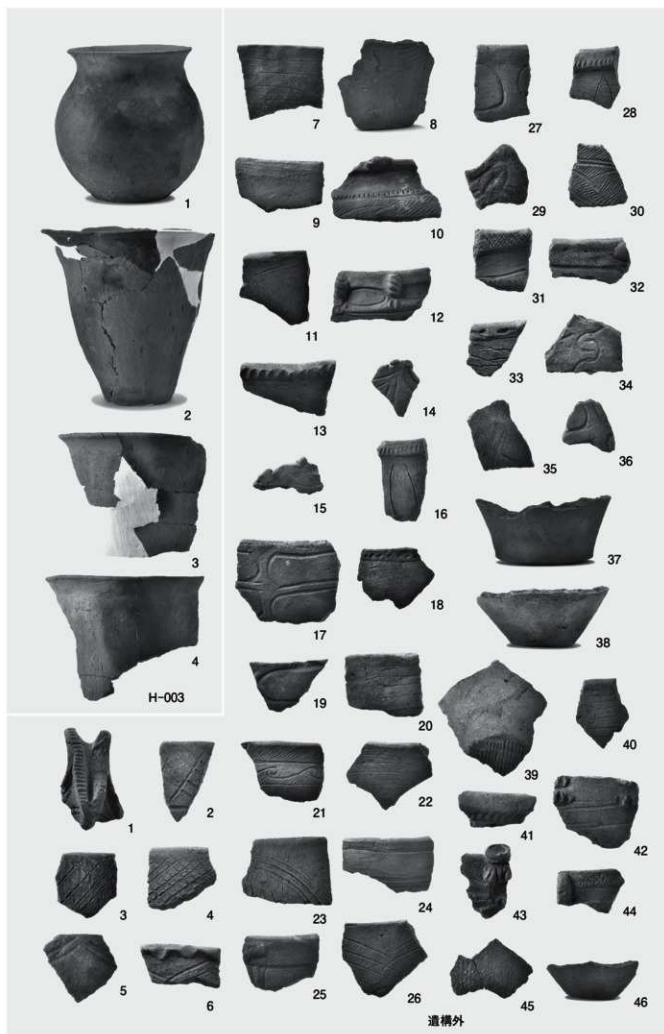


21

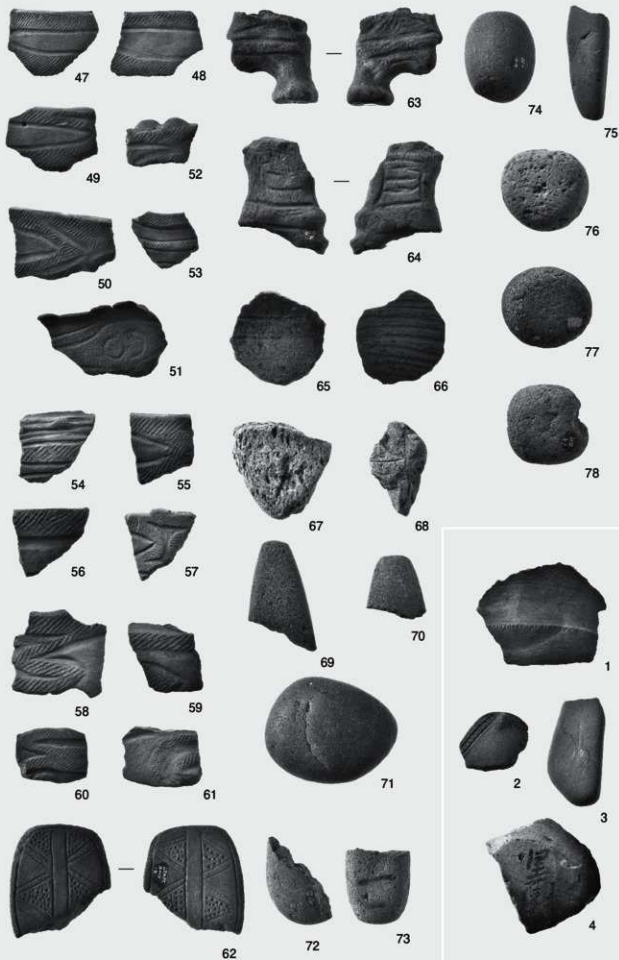


22

H-002



1. H-003・遺構外出土遺物



遺構外

表探

1. 第2トレンチ
(西より)



2. 第11トレンチ
(西より)



3. 第17トレンチ
(南西より)



4. 表採出土遺物



1. 第1トレンチ



2. 第2トレンチ



3. 第3トレンチ



4. 第4トレンチ



5. 第1トレンチ・第4トレンチ・第5トレンチ出土遺物

芝山町埋蔵文化財調査報告書 第12集

千葉県山武郡芝山町

小池地区埋蔵文化財調査報告書 (4)

宮郷台遺跡 (860-4地点)

小池地藏遺跡 (872地点)

宮郷台遺跡 (843-1地点)

印	刷	令和4年3月24日
発	行	令和4年3月31日
発	行	芝山町教育委員会
編	集	芝山町教育委員会 千葉県山武郡芝山町小池973 TEL 0479-77-1861
印	刷	株式会社 弘 文 社
製	本	千葉県市川市市川南2-7-2 TEL 047-324-5977
